

令和6年度 教育指導の重点及び学校経営計画

学校番号 902 学校名 岐阜商業高等学校（定時制）

<p>学校教育目標 (教育方針)</p>	<p>基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、商業教育を通して「生きる力」を育成し、地域社会に貢献しうる商業人の育成を目指し、特に以下の目標の実現に努める。 1. 普通教育および商業に関する専門教科の基礎学力を着実に習得し、将来にわたって創造を働かせ、進歩向上を図る商業人を育成する。 2. 心身ともにたくましく、強い意志と実践力のある商業人を育成する。 3. 礼儀を重んじ、社会秩序を守り、進んで協力・奉仕する人を育成する</p>	
<p>3つの方針 (スクールポリシー)</p>	<p>どんな生徒を 育てたいか 【GP】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 商業の実習授業や資格検定の取得を通して、商業に関する技能を主体的に身に付けようとする生徒 ・ 将来の地域社会の担い手として、礼儀を重んじ、社会秩序を守り、進んで協力、奉仕する生徒 ・ 自分の適性や興味、関心を見極め、進路実現に向けてチャレンジする生徒
	<p>生徒をどう 育てるか 【CP】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少人数授業やICTの活用により、生徒の興味、関心を高め、学びの楽しさや分かる喜びを感じる授業の推進 ・ 3年間での卒業を可能とする三修制と基礎基本の定着、実習と資格検定の取得に重点においたカリキュラムの編成 ・ 自己の存在感を実感し、楽しく仲間と協力して活動できる学校行事や特別活動の推進
	<p>どんな生徒を 待っているか 【AP】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本校で学びたいという意志をもち、仲間と協力して生活できる生徒 ・ 商業の学習に興味、関心があり、資格取得などに目的意識を持って取り組む意欲のある生徒 ・ 自分を見つめなおし、働きながら学習することにより、コミュニケーション能力や社会性を身に付けたいと考えている生徒
<p>学校の抱える課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎学力定着のための授業改善 ・ 人とのつながりや地域活動、文化芸術やスポーツに触れる感性を育む機会の減少によるコミュニケーション能力の低下 ・ 自己有用感、自己肯定感を育むための各種体験活動等の不十分さ（健康教育におけるスポーツ活動の不十分さを含む） 	
<p>教育指導の重点</p>	<p>領域・分野</p>	<p>今年度の具体的な重点目標</p>
	<p>学習指導</p>	<p>基礎的・基本的な学力の向上 社会の変化に対応できる基礎学力と学び方を身に付ける学習活動の推進</p>
	<p>進路指導</p>	<p>専門的な知識・技術の定着 個々の生徒の興味や適性に応じたきめ細かな進路指導の推進</p>
	<p>生徒指導</p>	<p>主体的に高校生活を送ることができる態度の育成 個々の生徒の特性を把握し、その伸長を自立する力の育成</p>
	<p>安全管理</p>	<p>安全・安心な学校づくりの推進 自他の価値観を認め合う意識の醸成により、自他共に命を大切にす態度の育成</p>

年度目標			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的な取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	
学習指導	・少人数授業やICTを活用した学習活動を推進し、学習の理解に繋がる指導を展開します。	8	施策Ⅱ-8
	・個に応じた資格取得目標を掲げさせ、目標に向かって取り組ませます。	23	施策Ⅳ-23
進路指導	・外部講師による進路ガイダンスや就職講習会により、仕事に対する認識・理解を深めます。	14	施策Ⅱ-14
	・適切な時期、場面にに応じて進路情報を提供し、一人一人の進路希望に応じた個別指導をします。	13	施策Ⅱ-13
生徒指導	・教育相談等の機会を通して生徒理解に努め、一人一人を認め高める生徒指導を推進します。	1	施策Ⅰ-1
	・学校生活における充実感を実感する特別活動(生徒会行事・部活動等)を推進します。	20	施策Ⅳ-20
安全管理	・正しい知識による食習慣を身に付け、心身ともに健康な生活が望めるよう指導します。	16	施策Ⅲ-16
	・交通安全、情報モラルを含む生活安全とともに、心の安全教育を大切に指導します。	19	施策Ⅲ-19

年度末評価(自己評価)			
取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等		評価 A. B. C. D	成果と課題
<ul style="list-style-type: none"> ・メタモジによる問題演習等、ICTを用いての学習の理解を深められるような指導を展開した。 ・授業アンケートで、「授業の組み立てが良い」「理解を確かめながら進めている」と答える割合が70%を得られたか。 ③学校評価アンケートで、保護者が「検定対策等の指導を通して、一人ひとりの能力に応じた指導を行っている」と答える割合が70%を得られたか。 		A	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導しなくても教員用のタブレットの画面上で生徒たちが、どこでつまづいているのか把握することができ、全体に向けて解説する際のポイントを精選することができた。 ・授業の満足度や理解度を高めつつ、積極的に学習に向かう態度を育てたい。 ・「資格取得」を通して、真面目に取り組もうとする生徒がいる一方で、最初から諦めてしまう生徒もいるのが実状である。
<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談等の個別に生徒と話せる機会を通じて、進路についての情報提供をした。 ・業者が、進路ガイダンスを行う条件が悪い中でも(生徒数が少ないことや、夜間という時間帯)今年度も実施することができた。 ①66%②80% 		C	<ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンスを実施(1回)したが、夜間ということもあり、進路ガイダンスを行ってくれる業者を見つけることが簡単でない。 ・部活動においては複数の部顧問で生徒を見ることで、生徒はさまざまなアドバイスを受けることができたと思う。
<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から常に対話を重視し、学校内外の取り組み(アルバイト等も含む)についても良い点を更に伸ばせるよう認める言葉掛けをした。 ・目標高く部活動に積極的に取り組めるよう、練習時間の確保や他校との練習試合を積極的に行った。また、技能が向上してきた部分に触れながら、前向きになれるよう言葉掛けをした。 ・学校評価アンケートで、①と②に関して、①生徒84%、保護者88%、②生徒80%、保護者88%という結果で評価指標を達成できた。 		B	<ul style="list-style-type: none"> ・個別対応は充実する(少人数)が、生徒が受け身になりがちなので、自己判断、自己決定を大切にしたい支援をしていきたい。 ・部活動において、他校との合同練習や大会参加など、前向きな活動ができた。 ・毎日の情報交流により、職員間で情報共有を行い、複数で生徒対応ができています。 ・ボーリング大会や球技大会等、学校行事に主体的に参加できるよう、生徒に意識づけして参加率を高めていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全・情報モラル・薬物については外部の専門家を招聘し講話を実施した。 ・学校評価アンケートで、①と②に関して、①生徒75%、保護者76%、②生徒79%、保護者82%という結果で評価指標を達成できた。 		B	<ul style="list-style-type: none"> ・各自のロッカーの整理や教室環境等、清掃の時間が無くとも身の回りの学習環境整備に努める姿や意識の高まりを今後も大切にしていきたい。 ・交通安全・情報モラル・薬物について、専門家からの被害・加害の両面からの正しい知識を生徒へ提示することができた。 ・心の教育に関して、ひびきあいの日の活動を通してグループワークを行い、意見交換を行う機会を作ることができた。

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和7年1月8日

- ・生徒が自ら考え、行動できるように、教員側はただ指示を出すのではなく、問いかけや励ましを通じて生徒の主体性を育むことができるように努めていきたい。その際に「解決策と一緒に考える」だけではなく、「課題と一緒に考える」ことから取り組んでいく必要がある。
- ・生徒の意見やアイデアを取り入れながら、多様で興味深い行事を行っていききたい。球技大会では生徒が当日の運営に積極的に関わる姿が多くあったので、準備での企画から引き出せるようにしていきたい。
- ・積極的に外部指導者(講師)を招聘し、普段とは異なる関係から生徒へ知識を提示していきたい。
- ・今後、学力の二分化が更に進む傾向があるため、習熟度別授業形態やT Tによる授業形態を考えていきたい。
- ・学校生活の指導において、普段からの保護者との関わり方が大切であると感じた。保護者との連携を強化し、細かく連絡を取り合い、良好な教育活動の場を提供していきたい。
- ・スポーツ活動の不十分さという課題から、地元のプロスポーツチームが活躍するサッカーやソフトボール、バスケットボール等の観戦を校外研修に加えることを検討したい。

学校関係者評価

実施日：令和7年2月5日

- ・集団生活が苦手でであっても、個を生かす職業も多くあり、スクールミッションにあるように、多様性を尊重した教育活動を、今後も続けていってほしい。
- ・苦手の克服は大切であるが、個性を伸ばすという、少子化の中、ここでしかできない教育は大切である。
- ・多対1の教育は変わっていく中で、少人数による定時制教育をもっと大胆に挑戦し続けていくとよい。
- ・今年度の、新たな取り組み(検察庁・裁判所見学)にとどまらず、市議会見学等も、是非、検討してほしい。
- ・この「ぎふ清流福祉エリア」においても地域交流を進めていきたい。(全日制主対応であるが、定時制においても今後検討していきたいと思う)